

比較評価項目についての意見

2013/9/30 用地検討委員：亀倉良一

第6回委員会会議資料の「比較評価項目検討資料」について、気づいたことを申し述べます。その前に、(その1)、(その2)とあり、(その2)は(その1)を再編成したもの、との説明でしたが、符合していない部分もあるように見受けられますので、(その1)を対象に意見を述べます。

1. 大項目の「住民合意形成」(No.37)の内容として、下記の小項目に分類してはどうか。
 - ①周辺住民への周知度
 - ②周辺住民の理解度(町内会・自治会の役員会等の反応を含む)
 - ③住民の意見の集約手段の有無・方法
 - ④地権者等の数、権利移転の難易度
2. 中項目の「法令関係他」の小項目「航空規制等」(No.9)は、前回検討委員会の説明で、成田空港や自衛隊下総基地があるが、当地域は抵触しない、との説明があったように思う。関係しないことが明らかなら、項目を立てる必要はないのではないか。
3. 中項目「自然環境」中の「生態系ネットワーク保全」(No.14)は、千葉県の基準にあるような「(3)一ウ鳥獣保護区」とか「(3)一オ特定植物群落」など、内容が具体的であれば良いが、このままでは概念が広すぎ、主観的評価になるので妥当でない。具体性を持たせるとすれば、「奇跡の原っぱ」保全運動のような自然保護運動を妨害しない、という意味で「生態系ネットワーク保全運動等の有無」と限定した方が良いのではないか。

また「里山景観」(No.16)というのもあまりにも漠然としており、これでは市街化調整区域は全て減点される。「景観」は市街地でも問題であるので、「里山景観」はここから削除し、No.28の「地域景観との調和」に統合した方が良いのではないか。
4. No.24「余熱利用」、No.25「リサイクルプラザ」などは、これを無条件に「是」とする価値基準になっており、是非の議論無く評価基準に入れるのは反対である。現段階では評価項目からはずし、「基本計画検討委員会」で検討される施設コンセプトも見た上で、当委員会の別次元の評価段階や、定性評価の方法で慎重に議論すべきである。No.36「収益性」も性質は同様なので、それらと合せて検討すべきである。
5. No.29、No.30の中項目「地域防災拠点化の効果が期待できるか」やNo.33「地域振興整備費用」、No.35「地域振興に係る運営費用」などは、いわゆる「地域還元」に属する項目なので、「上から目線」で考えるというより、候補地の住民サイドからの提起や希望をもとに検討すべき内容と思われるので、別次元の評価項目として、ここからははずしておいた方がよいのではないか。

以上、取り急ぎ意見を申し述べます。

以上